素顔 '87

新々武士　村上多喜雄

Heart Attack にもめげず，世界中を飛びまわっている，齢を感じさせない．ハワイ大学の村上多喜雄教授に話を聞いてみました．

問：どうして，気象技術官養成所に入ったのですか？

——さしたる理由はない．唯，試験を受けたら，合格したので入った．

問：いつごろ，気象学に興味を持ちましたか？

——気象庁測候課の技術係長として勤務していた頃，測距儀で雲の高さを測っていた．雲の高さと風の違いを調べるためにパイロットもあげていた．そうすると，梅雨の終わりに，梅雨あけと同時に，風が西風から東風に急に変わった．何故か？　と疑問に思い，それで，面白くなった（昭和25年頃）．その後，断面図を書いたり，高層天気図を書いたりして，"Jet の消失"を見つけた．その頃，東大の正野先生がちょくちょく測候課長の吉武先生に会いに来られた．私の仕事をみて，英語で論文を書けということになった．初めての経験で苦しかった．それでも，正野先生の激励が効いた．

そもそも，養成所の研究科1，2年生の頃は，気象学は全く面白くなかった．流体力学，物性論，積分論，確率論などばかりやっていた．その頃の本を今読んでみると，何が書いてあるか，全く分からない．

まず，最初に，統計がいやになった．研究科3年になって卒業論文を始めたら数学などやっている時間がなくなった．卒業論文は正野先生の指導で気圧と風の場のアジャストメントについてであったが，詳しいことは忘れてしまった．研究科の同級生には，増田善信，倉嶋厚，石川業六氏などがいた．

問：それで，それからどうしたのですか？

——その頃は，レッド・パージや定員削減で気象庁は大変な時代であった．吉武先生は研究科の頃から知っていたので，吉武先生が測候課勤務を勧めてくれた．

測候課には3年いた．その頃は，観測部長が川畑さんで，養成所以来かわいがってくれた．いうなれば，親分・子分的な関係で，課長を通さないで，直接仕事の話が来た．それで，評判がわるかった．そのうち，吉武先生が名古屋にゆくこととなり，荒川先生や松本（誠）さんが，「研究所へ来ないか」といってくれた．ところが，川畑さんが，「ダメだ」と言った．そこで，吉武先生が，川畑さんと，口角泡を飛ばすぐらい激しい喧嘩をして，"研究所ゆき"を決めてくれた．本当に，吉武先生には感謝している．川畑さんには，3年間只見川のスノーサーベイにゆくことで了解していただいた．

問：研究所では，どうでしたか？

——梅雨や，大循環に関連した仕事をしていた．梅雨に関する論文を，MIT の Starr に送ったところ，"来ないか"という招待状が来た．そこで，MIT に行った．とても良い勉強になった．特に，Phillips に一番影響を受けた．Starr の影響は受けなかった．Charney は，しきいが高かった．Phillips は人の話を親切に聞いてくれるが，Charney はぶっきらぼうだった．

問：インドへ行ったのは？

——実は，インドへゆきたくて仕方がなかった．その時，WMOの指導員としてインド熱帯気象研究所へ行くことになった．同じ頃（昭和41年），アメリカから招待状が来ていた．今度，アメリカへゆく時は，気象庁をやめる気でいた．

問：何故ですか？

——その頃，とにかく，評判が悪かった．他の人が外国へ行かない時に，しょっ中，アメリカや，WMO から金を貰って外国へ出ていたので．そこで，招待を受けるのなら，永住する気ではいた．自分としては，行くと返事をしたわけではないのに，インドから帰国したら，家族全員の航空券や，ビザまで準備してあった．そこで，ここまでしてくれるならと，決意した．高橋（浩）先生に会いにいったら，「やめる必要はない．1年位たって居れる自信がついてからやめなさい」と言ってくれた．1年位，休職にしておいてくれた．

問：どうして，ハワイに？

——NOAA にいって3カ月位の間に，3通ぐらい，招聘状が来た．その頃，NOAA には，長く居る所ではないと思っていた．年がいったらどうなるかを考えた．ああいう所だから，行政官にならねばならない．日本人で行政官はつとまらないだろう．

問：自分の一生をふり返ってみてどうですか？

——人生は，何も計画通りにいくとは，限らない．その

時々の局面で，良いと思った途をゆくしかない．また世話になった人々の御恩を忘れてはいけない．

問：若い人達に言いたいことは？

——とにかく，良い仕事をするためには，好きになることだ．そして，努力すれば，必ず，好きになる．このことは，全てのスポーツと共通である．好きになれば，研究のやり方は自然に開けてくる．自分に合ったやり方でやれば良い．私のように頭のわるい者でも結構楽しく研究生活を続けてきた．

問：日本に対する印象は？

——もう少し，国際的になって欲しい．MONEX の時，かなり悪口をいわれたし，評判が悪かった．

英語をペラペラしゃべる必要はない．視野を広くすることが大切である．自分だけ，日本だけ良ければよいと考える人が多すぎるように思う．日本の予報は一つの県とか，せいぜい日本附近の予報を意味する．不思議な国である．世界の予報をするつもりでなければ良い予報ができるはずがない．ひまわりの写真は日本の予報ばかりでなく，中国，東南アジア，オーストラリアの国々で広く使われている．世界中の気象学者もひまわりのデータを使いたいと考えている．ひまわりの業務管理がこのような視野で行われているかどうか疑問である．

老いてもなお，気概を失なわず奮闘している姿は，剣道五段の腕前と合わせて考えると，明治生まれの日本人の気迫を感じさせる．表題を“古武士”とつけたら，表題の如く変更を要求された．その理由に曰く，刀は作られた年代で区分する．“古刀”は秀吉時代（慶長年間）以前に作られたもの．“新刀”は慶長から文化年間まで，即ち徳川末期（1805）までのものであり，それ以降のものは“新々刀”と呼ばれている．従って“古武士”という呼び方は一般にはよく使われているが，幕末や維新の頃の武士を“古武士”と呼ぶのは妥当でない．古武士というからには武士道精神が確立（宮本武蔵）以前の武士をさす．また私自身は未だ若いと思っているので，揶揄を交えて“新々武士”という表題にしたいとのことであった．

今後の御健康と御活躍を祈念して，この回を終えることにしよう．

（住　明正）

日本気象学会国際学術交流基金への募金のお願いと寄付者御芳名（第13報）

日本気象学会は，かねてから各国の気象関係組織および研究者との学術交流を図るため，国際学術交流基金をもうけて，学会もしくは会員の学術交流の援助を目的とした活動を致しております．実施にあたっては，外国で開催される国際学術研究集会への会員の出席の補助，国際学術交流に貢献する事業の援助などです．

本来この基金は，少なくとも一千万円程度の元金があって，その利息で活動費をまかなうことを目標としていますが，現在のところ，その過渡期として，学会自身の年間予算から毎年約百万円を積み立て，並行した，わずかの一般事業費と篤志による個人寄付金で活動を行っております．

基金の基礎を固めるためには，是非，会員の皆様からの御寄付をお願いします．理事会としては，さらには大口の団体寄付を仰ぐべく努力致す所存です．国際学術交流基金の趣旨を御理解いただき，12月号挿入の振替用紙を御利用の上，一口千円として，なるべく多くの御寄付をお願いします．

なお，募金期限は昭和62年12月末日と致しますが，早い時期にお振り込みいただきますようお願いします．

昭和62年７月

日本気象学会

昭和62年６月30日現在，下記の会員からご寄付がありましたので，お礼を兼ねて報告申し上げます．（敬称略）

記

栗城　弘幸，金澤　照子，阿部　克也，小寺　邦彦

以上４名　合計口数　71口　71,000円

累計 112 名　１団体　939口　939,000円

62. 6.30 現在　国際学術交流基金額　5,000,000円

（うち配当金　158,683円 基金繰入）